

## 「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（小学校）

【久喜市教育委員会】

### 1 現状と課題

分析プログラムを活用した校内研修を行い、児童の現状と課題を考察した。結果については、県と市の正答率と本校の正答率を比較し、学習成果のある内容か課題とすべき内容かを判断した。

- ・4教科とも、県平均を超える正答率で、学習内容はおおむね身に付いている。
- ・国語の「話すこと聞くこと」については、95%の正答率であり、充分身に付いている。
- ・算数の「数と計算」については、95%の正答率であり、充分身に付いている。
- ・国語の「書くこと」については、課題が見られる。
- ・関連項目から、国語の「書くこと」に対して、理科の「知識理解」、算数の「知識理解」が関連している。
- ・応用問題や生活経験が関わる問題については、どの教科も正答率が低い傾向がある。
- ・学習意欲、生活規律等おおむね身に付いている。

以上のことから、

○「書くこと」を取り入れた授業の工夫・改善

○生活場面を活かした授業の工夫・改善

○9年間の学びの一体化のため、分析プログラムを活用した小中一貫教育協議会実施

○授業力向上のための教材研究を週1回の学年会に位置づけた「学び向上会」の実施に取り組むこととした。

### 2 取組の概要

○「書くこと」を取り入れた活動の工夫・改善

検証プログラムから考察すると、書くことに抵抗を持っている児童や、生活のあらゆる場面で必要に応じ書くことに抵抗を持っている児童が見られた。そこで、「自分の考えを明確にした文章を書く力」を身に付けるため、「文章の構成」と「語彙力」に焦点を当て指導を行う。

「PISAタイム」における取組

- ・新聞記事を読み、要約したり見出しを付けたりするなどの活動から、自分の考えを明確にまとめるようにする。その際、3段構成を意識した文章構成に取り組んでいる。

「ことばタイム」における取組

- ・詩や論語、古典の暗唱を行うことで、語彙力を増やし自分の文章に活用できるようにしている。

「読書タイム」における取組

- ・年間読書30冊を全校で取り組み、言語の力を磨く。

「書くこと」を位置付けた授業改善

- ・自分の考えをノートに書く場面や、授業のまとめを児童の言葉でまとめるなど書く場面を授業の中に位置付けるとともに、評価を積み重ねていく。

### ○生活場面を活かした授業の工夫・改善

検証プログラムから、体験活動が学習に活かされていなかったり、自然体験が少なかったりしている児童が見られた。そこで、体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかかわり、自分への自信をもたせる必要がある。そこで本年度の研修テーマである「総合的な人間力」の育成に向け、「算数的活動」「観察・実験」を充実させた授業を行う。

(学び合いを深める授業改善の為の視点)

- ・ 付けたい力を明確にした授業構想
- ・ 必要感のある課題の設定
- ・ 自分の考えがもてる支援の工夫
- ・ 友と協力して学ぶ効果的場の設定
- ・ 話し合い活動の意図の明確化
- ・ 学びを活用する場の設定、教材開発

### ○9年間の学びの一体化のため、分析プログラムを活用した小中一貫教育協議会実施

「中1ギャップ」の解消、学びのスムーズな移行の為に、小中一貫教育の取組が必要である。そこで、小中共通で取り組んでいる県小・中学校学習状況調査のデータを活用し、共通課題とそれに向けた方策を話し合った。

「久喜中学区小中一貫教育協議会（8月21日（火）会場：久喜北小）」 （資料①，②）

- ・ 分科会（国語，社会，算数・数学，理科，外国語，道徳，総合，生徒指導，特別支援）に分かれ，学習活動・指導方法の工夫・小中の接続等に視点を当てて協議し，指導の重点や解決策の共有化を図った。

### ○授業力向上のための教材研究を週1回の学年会に位置づけた「学び向上会」の実施

学力向上のためには、授業力向上が欠かせない。教師自身が「質の高い授業」のための具体的な学習指導について研究し、日々学習指導の改善・充実に努力していく必要がある。そこで、学年での「週シラバス（週の学習予定）作成」を「学び向上会」と位置づけ、学習予定の確認だけでなく、授業のねらいや教材教具の確認、教材開発を含めた教材研究を学年で計画的に取り組んでいる。

## 資料①

### 平成 24 年度 第 1 回中学校区小中一貫教育協議会 分科会について

- 1 ねらい：中学校区 4 校における教育活動の共通課題や解決策等について協議し、小・中学校が連携して、教育活動に取り組むことができるようにする。

協議したことを授業改善や年間指導計画の作成等に生かしましょう。

## 2 方法と内容

- (1) 以下の 9 部会に分かれ、ワークショップ型の協議会を行う。

各部会の担当校が、司会とまとめを行う。ワークショップ時の記録は当日、部内で決める。

まとめは、教育委員会の共有文書⇒指導課指導係⇒事業別⇒79 小中連携に保存

- |         |          |
|---------|----------|
| ① 国語    | 〇〇小      |
| ② 社会    | 〇〇小      |
| ③ 算数・数学 | 〇〇小      |
| ④ 理科    | 〇〇中      |
| ⑤ 外国語   | 〇〇小      |
| ⑥ 道徳    | 〇〇小      |
| ⑦ 総合    | 〇〇小      |
| ⑧ 生徒指導  | 〇〇中      |
| ⑨ 特別支援  | 担当校は当日決定 |

報告書枠をコピーして使って下さい。  
4 校の共通課題と解決策等を報告する書式です。簡条書きで簡単に記述して下さい。総合や特別支援等、書きにくい部会は変更して下さい。

資料について  
教科部会は埼玉県学習状況調査を活用  
道徳は、質問紙の結果を活用  
生徒指導は、3 達の規律ある態度の質問紙結果を活用

- (2) ワークショップの進め方 ①自校の分析⇒②課題設定⇒③解決策の立案

～資料の綴じ込みと自己紹介～ (10 分)

#### ◆自校の分析(10 分)

…資料より、課題を 3 つ、成果を 3 つあげ、付箋に書く。

時間があれば、課題解決の方策と成果をあげた活動も書き込む。

#### ◆課題設定(20 分)

…4 校の共通した課題やよさを確認し、共通課題を設定する。

各校の分析結果を画用紙に付箋をはりながら話し、連携して行うべきことを見出す。

#### ◆解決策の立案 (50 分)

…学習活動・指導方法の工夫・小中の接続等に視点をあてて協議し、指導の重点や解決策の共有化を図る。成果についても、要因を分析し、生かす。

\*7 月 25 日 (水) 26 日 (木) の教育課程研究協議会での指導内容も生かしましょう。

クリーム色の付箋：成果  
ピンク色の付箋：課題

- ★⑤外国語は小中の接続を考え、目標設定・共通して行う具体的教育活動等についても協議を行う。
- ★⑦総合は、協議内容を学習内容の重複と発展性、発表力（表現力）の育成についてとする。
- ★⑨特別支援は、教材の協同開発や交流学习の計画等を行う。

## 資料②

平成 24 年度 第 1 回中学校区小中一貫教育協議会 分科会報告書

( 算数・数学 ) 部会

担当校 ( ○○小 ) 学校

ねらい：○○中学校区 4 校における教育活動の共通課題や解決策等について協議し、小・中学校が連携して、教育活動に取り組むことができるようにする。

### 1 4 校の共通課題

全体的に学習内容は身につけている  
計算領域は習熟が図れている。  
量と測定については、正答率が低い。  
説明する力が充分でなく、記述式は正答率が低い。  
学習したことを活かして応用問題に取り組む力が充分身につけていない。

### 2 解決策や連携して取り組む教育活動

説明する活動を授業に位置付ける。⇒ノート指導の徹底

- ・見出しを付ける。
- ・順序や結論が分かる言葉を使う。(はじめに、つぎに、だから 等)
- ・式をつなげていかない(=を縦にそろえてかく指導を小学校から行う)
- ・自分なりの考えがどんな形でもかけるよう継続して指導する。
- ・ノート検定など意識して取り組む。

学習習慣を身に付ける

- ・人の話を聞く。
- ・家庭学習を自主的・継続的に行う。

発表力育成のため授業に発表場面を取り入れる。

- ・発表することに抵抗を感じない学級経営を行う。

(単元の連携)

- ・通分、公倍数・公約数の習熟を小学校で行う。(中学校 計算等の基礎)
- ・数の感覚は小学校低学年から
- ・掛け算九九は全員ができるように低学年から指導を徹底する。
- ・小学校でしかできない体験をたくさんさせる。(量と測定などで)
- ・数直線の活用ができるように系統的に指導を行う。